



イエメン：サウジなどがハーディー前大統領派に与して参戦

政治過程が崩壊し、フーシー派、ハーディー前大統領派、サーリフ元大統領派などが割拠して武装抗争を続けていたイエメンで、サウジアラビアなど GCC 諸国がフーシー派、サーリフ元大統領派の拠点への爆撃を開始した。今般の爆撃は、フーシー派と同派と連携するサーリフ大統領派の部隊が南進し、ハーディー前大統領派が「暫定首都」として拠るアデンに肉薄したことを受けたものである。『ハヤート』紙等によると、25日の時点で、フーシー派などはアデン空港やアデン付近の空軍基地を制圧し、アデン市内でも戦闘や略奪が発生していた。これらの報道によると、ハーディー前大統領がアデンを脱出したとの情報もあり、消息が不明である。空爆開始前の時点で、ハーディー前大統領派は崩壊の瀬戸際にあった模様である。

こうした事態に対し、ハーディー前大統領派は GCC や国連に対しフーシー派を撃退するための軍事介入を要請し、GCC が「(フーシー派の侵略に対し) イエメンの正統な政府と人民を守るため」と称してこれに応じる方針を示していた。アメリカ政府は直接攻撃には加わっていない模様であるが、情報提供や兵站面で攻撃を支援した模様である。

なお、フーシー派とは、1990年代にイエメン北部のサアダ県で結成されたザイド派信徒によるイスラーム復興運動のひとつだったが、2003年のアメリカ軍によるイラク占領以降、反アメリカ・反イスラエルの言動を強め、2004年からはイエメン政府(当時はサーリフ政権)との軍事衝突を繰り返してきた。2011年の政変後、いったんは政治的移行のための国民対話に参加したが、後に離脱した。離脱後は、競合する政治勢力や部族との武装紛争に勝利しつつ南進、2014年9月以降はサナアをも制圧し、2015年1月には当時のハーディー大統領、バハーフ内閣を辞任に追い込み、イエメンの政治過程を自派の監修下で進めると発表するに至った。これまでの間、フーシー派には「反アメリカの過激派」、「アル=カーイダ系」、「イランの手先」など様々なレッテルが貼られてきており、同派の利害関係をイエメンの政治・経済の運営に反映させる試みはほとんどなされなかった。フーシー派の南進については、移行の過程から排除され、復権を目指していたサーリフ元大統領派の協力を得たものとも言われている。サーリフ元大統領を支持する軍人らは、空爆が始まる前の段階で、「あらゆる外国の干渉拒否」を表明していた。

評価

今般の軍事介入が、混迷を続けるイエメンの政情の建て直しにつながるか否かは楽観を許さない。事態の推移は、サウジをはじめとする GCC 諸国がどのような目的を持って軍事介入をしたかにもよるが、目的が「フーシー派などを GCC が主宰する対話の席につかせ、政治的に屈服させる」のか、「フーシー派などを軍事的に打倒する」のかで介入の強度や期間が変わってくるだろう。その一方で、サウジなどの軍事介入の目的がどのようなものであれ、以下の問題点が指摘できる。

第一は、サウジなどが「正統な政権」とみなすハーディー前大統領派は、1月以降はイエメン全体を代表して政治的移行を進める存在ではなくなり、各地に割拠する紛争当事者のひとつに過ぎなくなっていた点である。これが、25日の時点で崩壊の危機に瀕していたことから、たとえ諸外国の軍事的な後ろ盾を受けて立ち直ったとしても、独力でフーシー派やサーリフ元大統領派を抑えてイエメンの政治を司ったり、「アラビア半島のアル=カーイダ」などのイスラーム過激派を鎮圧したりすることは困難であろう。このため、諸外国はハーディー前大統領派に対し長期に渡り多大な援助を続けることになりかねない。

第二は、諸外国がハーディー前大統領派の正統性に固執するあまり、フーシー派やサーリフ元大統領派への敵視が過ぎる点である。現在のイエメンの政情の混乱は、2011年の政変後の移行過程が破綻した結果である。体制転換のような政治的変動後の移行過程においては、広範な和解の実現が成否の鍵となる。すなわち、旧体制の担い手の中でも、一定の者を失政や汚職の責任を問われ排除する一方で、それ以外の者を新体制に包摂する必要が生じるのである。また、イエメンの場合では、フーシー派のように新旧のいずれの体制からも排除される主体を、どのように処遇するかが極めて重要となる。この点について、GCC諸国の声明ではあたかもフーシー派をイエメン人民に含まないかのような表現が用いられており、軍事介入後のイエメンの政局の建て直しにあたり、正統で包括的な体制を構築する構想があると感じられないことが懸念される。

現状では、サウジなどによる軍事介入はイエメンの紛争の当事者のひとつに外部勢力が直接加担し、紛争を長期化させるに過ぎない措置である。今後、本来は「保護する」はずだったイエメン人民を更なる苦境に追い込まないためにも、イエメンの政治的移行の過程を可能な限り公正かつ包括的なものに再編しなくてはならないだろう。

(高岡上席研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

©各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.meij.or.jp/>